

節句のしつらえ ～五節句

五節句とは

「正月（人日）」、「上巳（ひな祭り）」、「端午」、「七夕」、「重陽」の節句の原型は古く奈良・平安時代から行われ、江戸時代には幕府も正式にこの五つを節句日として定め、現代でも広く民間で行われている行事です。

中でもお子様が初めて迎える「お正月」、「ひな祭り」、「端午の節句」にご家族揃ってお祝いをされる「初節句」は、日本のよき伝統のひとつとしてずっと続いてほしい行事であります。そのお正月に飾る破魔弓、羽子板飾り、ひな祭りのお雛さまや市松人形、端午の節句の武者人形や飾り馬、鯉のぼりなどの製作に中部地区の多くの職人がたずさわっています。

中部地区で作られる多くの節句品

明治時代に結成された名古屋雛玩具組合は、終戦後愛知県雛人形文化協会として再結成、昭和39年に中部人形節句品工業協同組合に改組して現在に至る歴史のある組合です。

節句品の多くは分業によってこしらえられていま



す。例えばお雛さまとひとくちにしても、かしら ぎつけ びょうぶ 頭、着付、屏風、ぼんぼり さくらたちばな 雪洞、桜橘、雛道具など多くの専門職の製品が



集まって一組のお雛さまとなります。当地には古くから着付師、かしら師、雪洞、桜橘などの職人が多く存在し、全国のお雛さまの販売の主要な部分を支えています。

端午の節句の飾り馬は三河地区の特産と言っても過言ではなく、また、岐阜地区での雪洞、陣屋提灯、尾張地区では浮世人形や尾山人形、破魔弓・羽子板飾りなどが製作され全国に出荷されています。

それぞれの仕事が江戸時代からの伝統的な手法によって支えられ、新しい素材や工夫が加えられながら発展してきました。平成元年には世界デザイン博で製作実演、平成22年の上海万博にも出品し、高い評価をうけています。

近年は住宅環境が大きく変化し、昔ながらの雛人形や五月人形を飾ることが難しくなって人形自体も小型化していますが、その分さまざまな工夫が加えられ、品質やデザインの面からも著しい進歩が見られるようになりました。

節句文化の歴史や意義、そしてその技術を伝えていくために、経済産業大臣認定伝統的工芸品の指定を得るため、この地での歴史や特徴的な技法の研究も進めています。

DATA ■ 中部人形節句品工業協同組合
所在地: 西区新道2-15-17...愛知県菓子会館
・明治時代: 名古屋雛玩具組合
・昭和22年: 愛知県雛人形文化協会を設立
・昭和39年: 中部人形節句品工業協同組合に改組
・平成22年: 上海万博に出品